

翼

どこまでも

どこまでも

高く

遠くへ

飛んでいける翼があつたなら

きつと

きつと

僕は君の下へ

その小さな肩に

はね  
心を落とそう

その小さな胸に

飾れるように

美しい心はねを

二人で見たものは

君と僕が

共に見ていたものは

今

過去になり

歴史になってしまった

それがいけない

のじゃない

それが間違い

でもないんだ

ただ

変わっていく

忘れていく

崩れていく

その様が

あまりに切ないだけなんだ

遠くの雲は

抜けるような青空に一点

雲が浮かんでいる

そよそよと風に揺られ

鳥達と戯れて

僕達を見下ろすように

あの雲は

君ですか

そんな問いを

心の中で

思っている

さよならを言えないままの

優しい君と

あの雲が重なって